

平成23年度農作物有害動植物発生予察情報

発生予報第8号（11月）

平成23年10月26日
山形県病害虫防除所

[概要]

腐らん病は重要な枝幹病害であるので、早期発見に努め、的確な防除対策を実施してください。

野その発生量は平年並の予想です。根雪前から総合的な対策を実施してください。

予報内容一覧

作物名	病虫害名	発生量
りんご	腐らん病	—
各作物共通	野そ	平年並

1. 農薬は鍵のかかる専用保管庫に保管し、盗難にあわないように管理する。
2. 農薬の空容器、空袋等の処理は、廃棄物処理業者に委託する等により適切に行う。
3. **農薬の使用にあたっては、登録内容（農薬使用基準）を遵守するとともに、隣接地や周辺作物へ飛散しないよう十分留意する。また、使用後は防除日誌の記帳に努める。**

山形県病害虫防除所

本所 TEL 023-644-4241 FAX 023-644-4746

庄内支所 TEL 0235-78-3115 FAX 0235-64-2382

ホームページ (URL)

<http://www.jppn.ne.jp/yamagata/>

I 園芸作物

1. りんご

(1) 腐らん病

腐らん病は重要な枝幹病害であるので、発生の多少に関わらず以下の対策を徹底し、伝染源の密度低下を図る。雪害による枝折れや樹体の損傷部位から感染しやすいので、着雪が多くなならないよう適正な整枝せん定に努める。

ア. 園地の見回りを徹底し、早期発見に努める。

イ. せん定痕処理

せん定枝の長い切り残しは、本病菌の侵入門戸になりやすいので、必ず基部から切り落とし、切り口には塗布剤を処理する。

ウ. 放任園は本病の伝染源となるので、地域ぐるみで対策を行う。

エ. 枝腐らん対策

枝腐らんを発見したら、直ちにせん除し適切に処分する。

オ. 胴腐らん対策

胴腐らんを発見したら、次の a または b の方法によって防除を徹底する。

a. 病患部は早い時期に健全部を含め紡すい状に大きく削り取り（削り取った病患部は集めて適切に処分）、塗布剤を塗布する。

b. 園地の土を、ダンゴ状につくれる固さに水で練り、3～5 cmの厚さで、病患部より5～6 cm程度幅広く張りつける。張りつけた泥の上を、ポリエチレンやビニールで包んだ後に、縄やひもで巻き、泥が乾燥しないように注意して1年後に泥を取り除く（泥巻き法）。なお、内部腐敗を防ぐため、縄やひもで巻く場合はあまり強く巻かず、内部に雨水が溜まらないようにする。

カ. 発生のみられる園地では、収穫後または発芽前に薬剤による防除を行う。

II 各作物共通

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(1) 野そ	平年並

1) 予報の根拠

- ア. 水田畦畔における生息密度調査（10月下旬）の結果、生息密度は平年並である。
- イ. 寒候期予報における冬（12月～2月）の気温は平年並か高く、降雪量は平年並の可能性が大きいと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

以下の対策を併用すると効果が高いので、根雪前から総合的な対策を実施する。
なお、薬剤を使用する場合は、事故が起きないように十分に注意する。

- ア. 野そが侵入・定着しないようほ場や周辺の清掃を行うとともに、駆除を行う場合は必ずほ場に隣接する草地等も含め共同で一斉に実施する。

a. 殺そ剤による駆除

- (a) 殺そ剤を投入する場合は、確実にそ穴に投入する。
- (b) 殺そ剤の使用量及び使用回数は、農薬使用基準の範囲内で野その生息数に応じて調節する。
- (c) 毒餌を調製する場合は、その地域で野そに好まれる材料を選ぶ。
- (d) 降雨が多い時期は、小袋入り殺そ剤の使用が効果的である。

- b. 空き缶や塩化ビニール管などを埋設して捕殺する方法（落とし穴）も有効である。10a 当たり 5～6 ヶ所に設置する。

イ. 果樹園での対策

- a. 果樹園で草生、敷わら、敷草を行っている場合は、根雪前に樹幹周辺の敷わら等を取り除き、巣作りを防ぐ。
- b. 落果等、餌になるものを園内に残しておくると野その密度を高くするので、園内に残さないようにする。
- c. 樹幹部を金網、フェルト、杉葉、肥料袋、割竹等で防護する。
- d. りんごでは忌避剤が使用できるが、その場合は、殺そ剤やネズミ捕り器と併用する。
- e. 特に幼木では被害が発生しやすいので、上記の対策を徹底する。

ウ. ハウス内での対策

- a. 野そが侵入・定着しないように、ハウス周縁部は内側、外側ともに踏み固めるとともに、ハウス内には隠れ場所となるような資材を置かない。
- b. 野そが侵入した場合は、そ穴や壁面に沿った通路に「ネズミ捕り器」や「粘着板」を置いて捕獲する。
- c. 捕獲器の設置後数日間は、捕獲器周辺に餌をまいて捕獲器への警戒心を与えないようにする。

○平成 23 年 9 月 22 日、仙台管区气象台発表の東北地方寒候期予報（10～2 月）は以下のとおりです。

東北地方 寒候期予報

（10 月から 2 月までの天候見通し）

<予想される冬（12 月～2 月）の天候>

冬（12 月から 2 月）の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

東北日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。

この期間の平均気温は、平年並または高い確率ともに 40%です。

<冬（12 月から 2 月）の気温、降水量、降雪量の各階級の確率（%）>

要素	地域	低・少	平年並	高・多
気温	東北地方	20	40	40
降水量	東北日本海側	30	40	30
降雪量	東北日本海側	30	40	30